

コミュニケーション

2005・10月号

OMORIYAMA
ZOO
NEWS
大森山

No.70



カリフォルニアアシカの親子

画：佐藤一男



秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

1



レッサーパンダ

2



フレードッグ

3



フタコスラクダ

4



ニホンイヌワシ

5



サマーナイトZOO

6



サマーナイトZOO

HOT INFORMATION

ほっといんぷおめーしょん

1 レッサーパンダに 三つ子の赤ちゃん誕生

昨年に引き続き、今年も繁殖に成功したレッサーパンダ。7月7日に生まれた三つ子の赤ちゃんはまるでぬいぐるみの様。春には親と同じくらい大きくなり、見分けがつかないほどに。小さく可愛いらしい姿が見られるのは今だけ。さあ動物園に急げ！

3 4 長寿おめでとう

動物園で長年飼育しているフタコブラクダの田田(テンテン=メス)とニホンイヌワシの鳥海(ちょうかい=オス)が(財)日本愛玩動物協会から功労動物として表彰された。田田は1982年に中国蘭州市より友好親善動物としてオスの蘭泉(ランセン:今年5/2死亡)とともに4才で来園。以来12頭の仔を出産しその子孫たちは全国の動物園で飼育されている。現在の年齢は27歳、人間に例えると80歳以上。[写真:蘭泉(左)田田(右)]

鳥海は1970年に鳥海山麓で保護されて以来、国内最長寿を誇るとともに人工授精にも貢献し、飼育下での自然繁殖成功の足がかりをつくった。現在の年齢は35歳以上、人間に例えると100歳ほど。

2 プレーリードックが目の前に！

展示場から突き出たトンネル、そしてその先に設置されたケージ。最近考案されたプレーリードックの「はらぺこハウス」。お腹をすかせたプレーリードックが、エサにありつこうとお客さんの目の前までやってくる。人気スポット！！

5 6 サマーナイトZoo 夜の動物園

8月12日～15日に開催された夜の動物園。去年までの2日間から今年は4日間に変更され、前半は雨にたたられたが約12,000人の入園者が訪れた。暗闇にライトアップされた幻想的な景色や普段見ることができない夜の動物たちの行動、また「まんまタイム」や「エサやり体験」などのイベントを大勢の入園者が楽しんだ。

研修レポート

夏休み期間中、動物園で研修を受けた先生達から感想をいただきました。

■秋田市立土崎南小学校 小武海 由紀子 先生

3日間の研修を通し、動物園では職員一人一人が多くの仕事を持ち、お互いに助け合って一生懸命に働いておられること、また、わが子のように愛情を持って動物に接していることなどがよく分かりました。お世話になった飼育係の方のように、自分も何事にもベストを尽くして取り組み、子供達のために頑張りたいと強く思いました。大変有意義で充実した研修でした。

■秋田市御野場中学校 渡辺 陽子 先生

研修を終えた今、思い出されることは、肉体的なつらさよりも動物たちの愛らしさや園内で瞳を輝かせながら見学している来園者の姿です。この2つを支えているのは、職員の方々の仕事に対する真摯な姿勢と動物に対する愛情に他ならないと思います。物言わぬ動物に無償の愛情を注ぐ職員の方々の姿は、私達教師のあるべき姿だと痛感しました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

■秋田市立御所野学院中学校 那珂 千波 先生

動物園では理科学習において重要な、自然や生命の概念に触れることができます。「食べるために動く」、「生きるために食べ、排泄する」動物の生命の営みによる直接体験の力の大きさを実感した研修でした。「まんまタイム」などの企画は、動物の命をつなぐ「食」の姿に直面する貴重な学びの場であると感じました。また、ホームページ上の動画などの充実により、動物の行動や特徴を学校でも伝えることができる、新たな可能性を感じました。

■秋田市立山王中学校 佐藤 未樹 先生

動物の世話ができたらどんなに楽しいだろうと単純な動機で研修先に決めた。3日間の研修で、それぞれの場面で得るものがあつたが、1番楽しかったのはふれあい広場での動物たちの寝床の掃除だった。可愛い動物たちが無心に食べては無心に出す大量の排泄物。冷静に処理していく飼育員の方に息の長い愛情の形を見ることができた。感謝。

■男鹿市立鶴木小学校 大久保 武彦 先生

普段檻の外でしか見ることでできなかった動物と間近に接することができ、数々の驚きや発見があつた。また、飼育係の方々の我が子のように愛情をもって飼育している姿に深い感動を覚えた。この貴重な体験を今後の教育活動に生かすとともに、動物に愛情をもてる子どもにしていきたい。



特集

動物園と芸術

動物園の入園ゲート前に麒麟「たいよう」とその母モモの像「いっしょだよ」（命名、安藤素子さん浜田小学校）が設置されたのは昨年のこと、その作品が第22回秋田市文化選奨に選ばれました。この像は秋田市で金属工芸をなさっているサム工房佐々木勇さんが、国際ソロプチミスト秋田等の資金提供を受けて作成したものです。動物園は、動物たちとの出会いの中、命を感じる楽しい場所ですが、芸術のモチーフにあふれたユニークなところ。大森山動物園のグレードアップしてくれた「たいよう」像に続き、アートとともにある動物園もめざしたいものです。今回は受賞を記念し佐々木さんほかの数人の声をお届け致します。



▲ねん土でのモデル

サム工房主宰 佐々木 勇

平成16年2月頃、小松守園長が工房に何度か足を運んでくださり、麒麟像制作依頼の話が進んでいきました。

制作時間、その他難しい問題もありましたが、小松園長の「どうしても、ここに麒麟の親子像が欲しいのです。」との熱意に動かされ正式にお受けすることになったのは3月半ばの事でした。子供たちの夏休みにあわせて、除幕式の日程が決定され、それからは時間との戦いでした。

スケッチから粘土でのモデルを作り、鉄ワイヤー実寸大のモデルを形作り、それに合わせて銅版の打ち出しに入りました。パーツごとにタガネとハンマーで成形する鍛金、溶接をしていく方法です。

「麒麟のたいよう」というモデルにこだわらず、いかにデフォルメにイメージに近づけていくか、空間にデッサンしていく様な作業です。納期を意識しつつ、打ち続ける作業は精神修行のようでもありましたが、一枚の金属板が徐々に変化し、そこに存在感が現れ始めると不思議なことに、彼らが語り始めるという楽しいひとときでもありました。ですから、動物園に届けるときには、ちょっと道草をしたり小さな旅の形になりました。



▲モデルに合わせてカーンマーでガンガ



▲麒麟の中にはしっかり、ステンレスの骨が入ってます



▲休日のキリン像前の風景

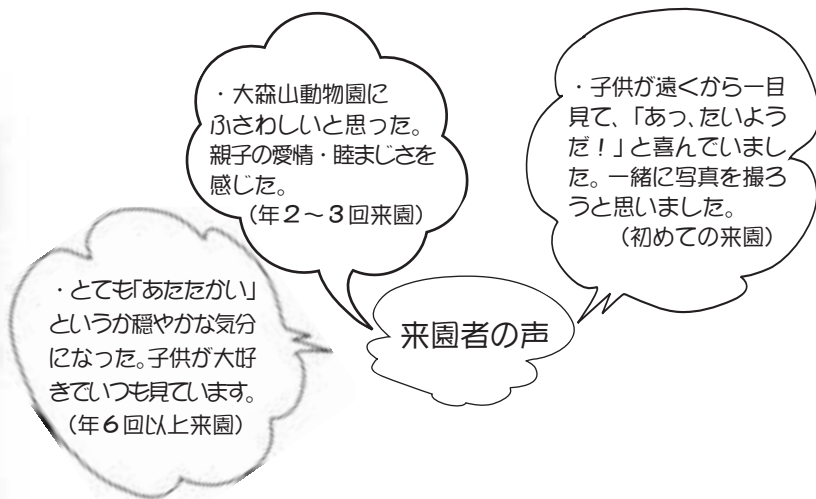


▲佐竹秋田市長より表彰状を受ける

の母子像」



ープを決めながらハ
ンゴンゴン



▲キリン「モモとたいよう」母子像除幕式



▲動物園まで搬送の小さな旅の途中で
日本海の夕陽をバックに

いつも見続けているチケット売場担当の声

福田 芙美、小松 貴子

キリンのたいようとモモの親子像は、記念撮影のスポットとして今や最も人気のある場所になっています。休日には親子やお孫さんを連れたおじいちゃん、おばあちゃんが順番待ちをしています。若いカップルもよくカメラ付き携帯電話で記念撮影をしています。また、みんなの人気者だった頃のたいようとモモをよく知っている人達が懐かしそうに眺めていたりします。

キリンのたいようとモモの親子像は、動物園のシンボリックな存在です。

カナダヤマアラシの皮膚病

飼育展示担当(獣医師)高橋 広 志(〇〇)

カナダヤマアラシは齧歯目(ネズミの仲間)の動物で、毛が変化した“トゲ”で全身がおおわれているのが特徴です。ところが今年生まれた子どもヤマアラシは、皮膚病のせいでトレードマークのトゲがまばらに抜けて、見るも無惨な姿になってしまいました。抜けたトゲやフケを検査してみると、どうやら真菌(カビ)が原因のようだと判りましたが、治療しようにもトゲが邪魔をして、薬を塗るのさえ簡単には行きません。結局、麻酔をかけて大人しくさせてから、全身を薬液に浸けて、トゲが刺さらないよう注意しながらシャンプーしました。なんとか洗い終えたあと、ドライヤーとピンセットを使ってトゲを数本ずつ持ち上げながら乾かし、麻酔が効いている間に軟膏を塗りました。何をやるにもトゲが邪魔になって苦労しましたが、治療の甲斐あって皮膚病はすっかりよくなり、今では元どおりフサフサ(トゲトゲ)です。



治療中



治療後

飼育日報より

5/1 ☀ ビーバー♂死亡。
5/2 ☀ ラクダ仔♀出産。
5/4 ☀ ペンガルヤマネコ仔出産。体重90.7g。
5/5 ♣ ラクダ「蘭泉」♂朝死亡。
5/8 ☀ ペンガルヤマネコ仔親による食害。
5/9 ☀ ホンドタヌキ出産個体数は不明。
5/10 ☀ ペンギン室内No.4、2つ目孵化。
5/13 ♣/↑ ホンドタヌキ仔親による食害。
5/14 ☀ シュバシコウ5個の卵が全てなくなっていた。
5/15 ☀ カラスによるものと思われる。
5/16 ☀ アビシニアコロフス♂と♀を同居させる。問題なし。
5/17 ☀ イヌワシ第2ヒナを巣に戻す。
5/18 ☀ イヌワシ第2ヒナ、病院へ収容。
5/19 ☀ カピバラ「ハタ」♀糞中に虫卵あり。回虫薬投与。
5/20 ☀ ウオキツネザル出産。
5/21 ☀ イヌワシ第2ヒナ再度巣に戻す。
5/22 ☀ ワシミスク検卵、無精卵だった為3個の卵を撤去。
5/23 ☀ カンガルー「バサージュ」♀総排泄口周辺に異変。
5/24 ☀ 治療を行う。
5/25 ☀ オオカミ「ミッドナイト」♂、「ハチ」♀同居。
5/26 ☀ オオカミ「ミッドナイト」♂、「サラ」♀、「ハチ」♀同居。問題なし。
5/27 ☀ イヌワシ第2ヒナへの給餌が確認出来ないため、パペット給餌。
5/28 ☀ ホオアカトキ巢の下にキレイに割れた卵の殻あり。
5/29 ☀ 孵化にたものと思われる。
5/30 ☀ イヌワシ第2ヒナ死亡。
5/31 ☀ カンガルー「バサージュ」♀群れに戻し同居。
6/1 ☀ ソウ放飼場に歯らしきものが落ちていた。
6/2 ☀ ハワイガン4羽食害。
6/3 ☀ ホオアカトキ朝、ヒナの声を確認する。
6/4 ☀ シマウマ♂と母子を同居。問題なし。
6/5 ☀ ウオキツネザル双子出産。
6/6 ☀ ノドジロオマキザル出産。
6/7 ☀ ハイイロペリカン死亡。背中に外傷あり。
6/8 ☀ リス仔の姿を確認。
6/9 ☀ ホオアカトキ2羽のヒナを確認。
6/10 ☀ ニホンザル仔出産育児放棄により保護。
6/11 ☀ アシカ仔出産。体重6.3kg。
6/12 ☀ カンガルー、エミューとの同居試みる。
6/13 ☀ ワライカワセミヒナの鳴き声を確認。
6/14 ☀ ソウ花子♀口内炎あり。
6/15 ☀ F、ケージ野性動物により、ネットに穴があけられ、オシドリ8羽がF、ケージ外へ。
6/16 ☀ イグアナ♂朝死亡しているのを確認。
6/17 ☀ アシカ親子を初めて外に出す。
6/18 ☀ アシカ仔の泳ぐ姿を確認。体重7.7kg。
6/19 ☀ ショウジョウトキ卵2個、抱卵を確認。
6/20 ☀ マナヅル産卵。♂♀とも抱卵している。
6/21 ☀ ニホンザル仔出産。
6/22 ☀ F、ケージオシドリ、F、ケージ外に15羽確認。
6/23 ☀ イヌワシヒナ巣立ち。(75日目)
6/24 ☀ ペンギン、05.4.29生まれのヒナがプールで泳ぐのを確認。
6/25 ☀ ペリカン7羽を捕獲し切羽。
6/26 ☀ ホオアカトキ、ヒナはばたきの練習をしている。
6/27 ☀ ウビチ出産。
6/28 ☀ ニホンザル2仔出産。(※1母1仔)うち4頭目

7/6 ☀ の仔、親にひきずられ保護したが死亡。
7/7 ☀ ワビチ仔であることを確認。体重11.5kg。
7/8 ☀ レッサーパンダ3仔出産。
7/9 ☀ ホオアカトキ、ヒナが巣の下に落ちているのを発見。病院へ収容後死亡。
7/10 ☀ マントヒヒ交尾行動確認。
7/11 ☀ ワライカワセミヒナ巣立ち。(34日目)
7/12 ☀ マナヅル抱卵中の卵、破卵。
7/13 ☀ リスザル「No.13」(妊娠個体)死亡。開腹したが死産。
7/14 ☀/↑ リスザル全頭にトキシプラズマ病予防薬を注射。
7/15 ☀ オオカミ「ハチ」♀四肢がふらつき歩行困難。麻酔下で検査。
7/16 ☀ ワビチ♂と母子同居。
7/17 ☀ ショウジョウトキ卵落下。(無精卵)
7/18 ☀ ニホンザル2仔出産。(※1母1仔)
7/19 ☀ カンガルー「モモ」♀右前脚骨折。
7/20 ☀ ニホンザル仔出産するも、育児放棄により死亡。
7/21 ☀ ペンギン05.5.5生まれのヒナがプールで泳ぐのを確認。
7/22 ☀ アシカ「マヤ」♀夜間の間に脱走。♀のプール内に入っていた。
7/23 ☀ カナダヤマアラシ♀細菌感染のため入院。
7/24 ☀ コモンマーモセット♀(妊娠個体)手術。仔死産。
7/25 ☀ チンパンジー「ボンタ」♀「まんまタイム」中に天井を破損させる。
7/26 ☀/↑ ビルマニシキヘビ「小」左目突出。
7/27 ☀ シロフクロウ♀体調がよくないため触診、採血。
7/28 ☀ 投薬と強制餌する。
7/29 ☀ 写生大会：参加者604名。
7/30 ☀ ニホンザル仔出産。
7/31 ☀/☀ ニホンザル仔出産。(今年9頭目、内2頭死亡)
8/1 ☀ サマースクール1日目：参加者18組50名。
8/2 ☀ コモンマーモセット♀手術後良好、群れに戻す。
8/3 ☀ サマースクール2日目：参加者17組47名。
8/4 ☀ リスザル「No.16」妊娠個体手術。仔は死産。腹膜炎を起こしていた。
8/5 ☀ 夜の動物園1日目：2,133名来園(夜Zoo来園者数)
8/6 ☀/↑ 夜の動物園2日目：1,175名来園(夜Zoo来園者数)
8/7 ☀ チョウゲンボウ予備舎にいる個体、左目大きく腫れる。消毒、軟膏で治療。
8/8 ☀/↑ ライオン馬肉入り氷を給餌。
8/9 ☀ 夜の動物園3日目：3,451名来園(夜Zoo来園者数)
8/10 ☀ 夜の動物園4日目：5,217名来園(夜Zoo来園者数)
8/11 ☀ ニホンザル展示場内の擬岩が破損。
8/12 ☀ コモンマーモセット♀手術後の抜糸。
8/13 ☀ タンチョウ右翼から出血。羽軸が折れていた。
8/14 ☀ トナカイ♀1給餌時に脱走捕獲収容する。
8/15 ☀ ウオキツネザル仔の入れ墨を行う。
8/16 ☀ アシカ「マヤ」♀タココンクリート壁に登り脱走できる状態になっていた。
8/17 ☀ リスザル「No.16」♀入院個体を群れに戻す。
8/18 ☀ クマタカ♂、♀を展示場にて同居。
8/19 ☀ ソウ9：20完全交尾確認。
8/20 ☀ チョウゲンボウ♀3、♀1搬出。
8/21 ☀ シュバシコウ台風風に備え納倉。
8/22 ☀ クジャク台風風に備え納倉。
8/23 ☀ アシカ「ナナミ」♀体重14.5kg。
8/24 ☀ ツキノワグマ♂と母子の同居。♀が♂に攻撃を繰り返すため途中で中止。
8/25 ☀

アシカの繁殖

飼育展示担当 柴田 典弘



出産当日の様子

6月4日早朝、「柴田さん！アシカ生まれてるよ！」。電話を掛けてくれたのは夜間警備担当の職員。朝の巡回で出産に気付いたそうです。気が動転しながらも、10分もかからずに出動する準備を済ませ、午前7時、動物園に到着しました。

私は今年の4月から、初めてアシカを担当することとなった「アシカ初心者」。向かう途中の車内では、アシカ舎到着後に何をすべきなのか、出産に至った最終的な兆候は何であったか等々、頭の中はパニック状態だった気がします。

そして動物園に到着。アシカ舎に急行すると、母スミコが生まれたばかりの小さな赤ちゃんに授乳しているところでした。子供が生まれた際、最も重要な観察ポイントは「授乳の確認」です。その授乳シーンを最初に確認できたことで、その後の飼育手法を冷静

に考えられるようになりました。

その時、フッと気付くと、いつもは強気な父親のマヤが、プールの隅で小さくなっていました。スミコがマヤに対してかなり激しく威嚇したようです。そこで、取り急ぎスミコと赤ちゃんを室内に収容し、しばらくの間マヤと別居させる方法を選択しました。室内に収容する際計測した赤ちゃんの体重は6.3 kg、性別はメスでした。

その後も順調に生育し、6月15日にプールデビュー、8月には愛称が決定、園内投票による834票もの愛称の中から「ナナミ」と名付けられました。

現在は離乳に向けて、魚を食べさせる訓練を実施しています。訓練とはいうものの、一匹の魚を「くわえて、放して、またくわえる」を繰り返すだけで、まだ食べることはできませんが、訓練は「アシカのまんまタイム内」で毎日実施しているので是非見に来て下さい。

最後に、私にとって今回の繁殖は、アシカが一頭増えたに留まらず、アシカを勉強する絶好の機会でもあります。まさしくナナミとともに「成長途上」の担当者ですが、いずれは・・・調教も予定していますのでご期待ください。

サマースクール体験記

サマースクールに参加して

秋田市山王中学校1年 阿部 潤一



説明を熱心に聞く阿部さん(左から2番目)

僕は、7月30日の大森山動物園サマースクールに参加しましたが、いろいろな体験をしたり飼育員の仕事の大変さなどを知ることができ、とてもためになった一日でした。

初めに開会式として動物に対しての心構えや今回のスクールの約束事などを職員の皆さんから聞きました。お話が終わったら、早速飼育体験にチャレンジです！

僕は、チンパンジーの担当です。チンパンジーの世話はもちろん初めてだったので、とてもドキドキです。担当の職員の人からチンパンジーの普段の生活や餌について教えてもらいました。その後、チンパンジーが夜入る部屋の掃除をしました。しかし掃除は意外に難しく大変です。ホースから水を出し、その水で汚れや食べ残しをとるのですが、僕がやっても綺麗にならないけど、職員の人やると直ぐ綺麗になるので、「やっぱりプロの人は違う」と思いました。その後は、ワ

オキツネザルや鳥っこの水辺のペリカンたちや象などに餌やり体験をしました。

午後の部では、動物関連の工作をしました。僕は、ペンギンの疑卵作りをしました。疑卵とは、セメントで作った本物そっくりの卵で、本物の卵とすり替える必要がある時に使うそうです。職員の方の手作りの卵の型に、セメントを流し入れ固まったら紙ヤスリで形を整えました。僕はセメントが固まるまでの間に、もう一つの工作、シカの角のキーホルダー作りもチャレンジしました。工作が終わった後、閉会式と感想発表があり、僕は疑卵をきれいな形で作ることができたことを発表しました。

その後、職員の方と参加者みんなで撮った写真や修了証、クジャクの羽などをもらい、サマースクールは終了しました。

サマースクールは、普段できない貴重な体験ができ、いろいろなことを学ぶことができました。皆さんも、是非このような機会があったら参加してみてください。

飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	63	351
鳥類	57	256
爬虫類	14	42
両生類	4	13
魚類	3	26
合計	141	688

(平成17年8月末現在)

編集後記

4月に、動物の飼育担当から普及企画担当になりました。慣れない仕事に空回りしながらも動物に関わった経験をいかし、動物園の情報をより多くの人に知ってもらい楽しんでもらえるように頑張っています。今回は、沢山のイベントがあり編集に一苦労しました。

千葉 直子

かたばた通信

【第28回親と子の写生大会】

7月26日、台風の接近に伴い、非常に不安定な天候の中で写生大会が行われました。604名の参加者たちは、時折強く降る雨の中で写生や造形に熱心に取り組んでいました。提出作品は例年並みの544点で、レベルの高い作品が集まり審査も難航しました。

市長賞

菅原 明莉さん(すがわらあかり)
中通小学校5年

「仲よし三ひき」

カピバラのもつ雰囲気、体の特徴がたいへんよく表現されていますね。体毛の微妙な色の変化、毛流をしっかりと観察し、時間をかけて丁寧に描いています。カピバラを一頭ではなく三頭描いたことで画面に変化が生まれ、また同時に家族単位で(群れで)行動するカピバラの生態をも表現する結果になっています。仲よし三匹、それぞれの表情、顔の向きの違いが面白いですね。



市議会議長賞

三浦 泰輔くん(みうらたいすけ)新屋幼稚園

「ちゃくちだ！ゆきひょうヤッター」

ユキヒョウの雄々しさが、鋭い目、ガッーと開かれた口、踏ん張った足から伝わってきます。画面いっぱいに頭からしっぽまで入れることができました。ユキヒョウの美しい毛皮の模様や雪のような毛並みを見事に表現できました。

【親子サマースクール】

今回は「親子スクール」と題して、7月30日・8月2日の2日間行いました。親子や個人、グループなど57組174名の参加があり、飼育体験や裏側探検などを行いました。

午後には、アニマルアート工作と題し、ペンギンの擬卵やトナカイの角を使ったキーホルダー作りなどを体験し、思い出の一品作りを行いました。



【動物園こどもシンポジウム】

大森山動物園の設置理念や果たすべき役割をより明確にするため、たくさん子どもたちから意見を聞こうと9月4日、こどもシンポジウムを開催しました。当日は市内5つの小中学校などから約200名が参加。父兄や一般の入園者も参加して多いに盛り上がりました。

今回子どもたちから出された意見は、これから制定する大森山動物園の設置条例に生かす予定です。